

令和2年8月18日

部農会長・部農会会員の皆様へ

J A 伊 豆 の 国
韮山営農センター

第7回 (8/18号)

水稻病虫害発生予察の結果について

注意：今回の病虫害発生予察でトビイロウンカ（秋ウンカ）と思われる害虫が見られました。山口県や広島県では既に警報が発表され、過去10年で最も多い発生量が確認されています。

①生育状況

平坦地は猛暑の影響から生育が進んでおり、昨年と同程度の生育まで戻ってきています。韮山・江間地区は、来週までに出穂が確認され始めると考えられます。山間地は固熟期となっております。天候によっては昨年より若干早まる可能性があります。

②害虫状況

平坦地の韮山、長岡、大仁地区の圃場で発生量の多い圃場のウンカを確認した所、トビイロウンカ（秋ウンカ）と疑わしい個体を確認されました。

秋ウンカは産卵～成虫まで約20日間で生育し、1匹の雌の産卵数は500～600個とされています。羽が退化した雌が株元で増殖、産卵する事で「つぼ枯れ症状」を発生させます。

本年は一度の消毒で安心せずに、害虫の発生状況に応じて、早めに薬剤散布を行うように心掛けて下さい。

(写真：昨年のつぼ枯れ圃場)



③資材紹介

「カメムシも兼ねたウンカ防除」

○スタークル粒剤

薬量：3kg/10a

時期：出穂～出穂10日後（穂が傾いた頃）

備考：カメムシ以外にもウンカ類やヨコバイ、ニカメイチュウ等の害虫にも効果あり
湛水状態で散布、4～5日は湛水状態を保って下さい。

<殺虫殺菌剤>

○トレボン粉剤DL

薬量：3～4kg/10a

摘用：ウンカ類、カメムシ類、コブノメイガ、ヨコバイ類 等

備考：株元にかかるように散布。

※除草剤に限らず水田に薬剤散布をする場合は、7日間は落水をしないで下さい。

問い合わせ：韮山営農センター 西島・田中 055-949-0055